

Mzee Rukhsa: Safari ya Maisha Yangu (ムゼー・ルクサ——わが人生の旅——)

Ali Hassan Mwinyi

Dar es Salaam: Mkuki na Nyota Publishers 2020 xix+491 p.

タンザニアでは近年、歴代大統領の自伝や伝記が続けて刊行されている。評者が本誌で紹介した2019年刊行のベンジャミン・ムカパ第3代大統領（在職1995～2005年）の自伝、2020年刊行のジュリウス・ニエレレ初代大統領（在職1962～1985年）の伝記に加えて、今回紹介するのは2020年に刊行されたアリ・ハッサン・ムウィニ第2代大統領（在職1985～1995年）の自伝である。ニエレレの伝記とムカパの自伝は英語で書かれているが、本書はスワヒリ語振興のために、スワヒリ語で書かれている。

タンザニアでは、ニエレレ初代大統領によって1967年から社会主義政策がとられたが、国内外の諸要因により、その経済は破綻した。1985年にニエレレの後を継いだムウィニ大統領は国の経済を立て直すため、さまざまな経済改革を断行し、1992年に複数政党制を導入し、民主化を進めた。ムウィニは、自由な経済活動を次々に許可していったことから、「ムゼー・ルクサ（ムゼーは高齢者の敬称、ルクサは「許可」の意）」と呼ばれており、これが本書の題名となっている。

全31章、参考資料、写真からなる本書には、ムウィニの生い立ち、ザンジバル大統領を経てタンザニア大統領になるまでの経緯、そして大統領として取り組んだ政治経済政策が詳述されている。ムウィニは1925年にタンザニア沿岸部のプワニ州で生まれ、4歳の時にザンジバルに移住した。そして、ザンジバルで教育を受けて教職につき、英国留学を経て、ザンジバルの教員養成大学学長や教育省事務次官などに任命される。興味深いことに、本書によれば、ニエレレやムカパとは異なり、若い頃のムウィニは政治にあまり関心がなかったようである。しかし、ムウィニは、1970年にニエレレが組閣する際、ザンジバル初代大統領のアベイド・カルメの推薦を受けてタンザニアの国務大臣に抜擢され、本格的にタンザニアの指導者としての道を歩んでいく。

本書にはタンザニア政治経済史に関する貴重な情報が多く含まれているが、それとは別に印象に残ったのは、ニエレレと対照的なムウィニの指導者理念である。ムウィニは、自身の政権下で遂行した経済改革やその一環で出した数々の「ルクサ」は偉大な哲学やイデオロギーに基づいていたのではない、自分はそういう人間ではないと述べているが、これは独自の社会主義思想を標榜したニエレレとの違いを意識して書かれたものであろう。また、人々の苦難を軽減することが自分の責務だと考え、生活必需品が不足するほど悪化した経済状況を打破するために実業家に商売の許可を与えたと述べ、「ルクサ」はイデオロギーではなく解決策だったと説いている(p.246)。本書にはニエレレへの敬意と謝辞が記されているが、その一方で、ムウィニの実務的な指導者像が浮かび上がってくるのである。

粒良 麻知子（つぶら・まちこ／アジア経済研究所）

